

**令和 6 年度実施
(2024 年度実施)**

**卒業生アンケート
調査報告書**

**令和 6 年（2024 年）9 月
別府大学短期大学部 FD 委員会**

はじめに

別府大学短期大学部では、教育の充実と改善に役立てるため、本学卒業生を対象とした卒業生アンケートを実施し、その結果を公開しています。

アンケートの設問は、ディプロマ・ポリシーの①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）を中心とし、その他、本学の教育改善について自由な意見を幅広く回答いただいています。

令和6年度の調査では、2019年度及び2021年度の卒業生を対象とし、81件の回答が寄せられました。卒業生の皆様から頂いた貴重な意見に基づき、本学の教育の見直しと改善にむけた検討を進めてまいります。

最後になりますが、このアンケートに参加いただき、貴重なご意見をいただいた卒業生の皆様に感謝申し上げます。

別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

目次

「卒業生・雇用主アンケート調査」実施要領	1
卒業生アンケート調査結果	2
(1) 食物栄養科調査結果	2
(2) 初等教育科調査結果	8
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの 結果による DP 達成度評価	
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領.....	16
食物栄養科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	19
1. 教 養（人間性の形成に資する幅広い知識，技能）	19
2. 専門力（専門に関する基本的な知識，技能）	20
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	22
初等教育科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	24
1. 教 養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	24
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	25
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	26

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施に関する資料

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第1条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第2条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第3条 調査対象は以下の2つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第4条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第2四半期から第4四半期の一定期間（10日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

卒業生アンケート調査結果

【食物栄養科卒業生】

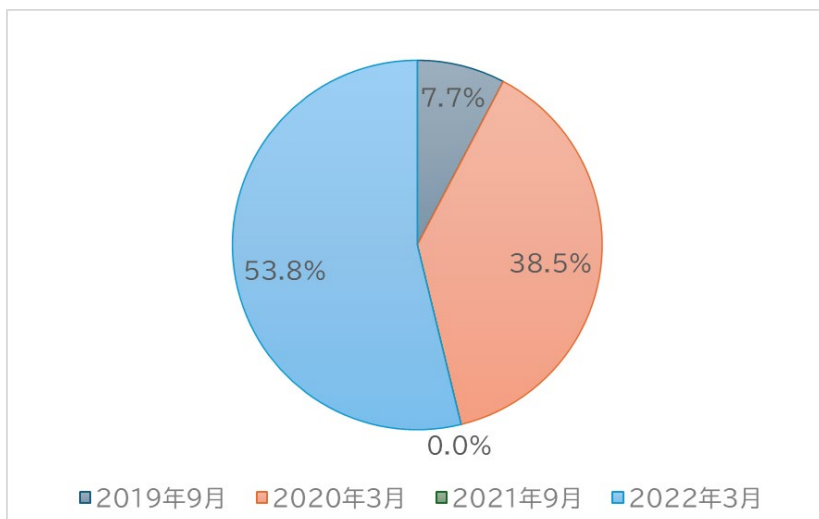
(1) 食物栄養科調査結果【送付：97人，回収：13人，回収率13.4%】

- 調査対象 2021年度卒業生及び2019年度卒業生
- 発送日 令和6年8月2日（金）

I. はじめに基本事項についてお答えください。

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	人数	割合
2019年9月	1	7.7%
2020年3月	5	38.5%
2021年9月	0	0.0%
2022年3月	7	53.8%
合計	13	100.0%



問2. 現在の職業（職種）をお答えください。

職種	人数	割合
栄養士(病院、福祉施設、保育園等)	6	46.2%
教員	1	7.7%
事務(受付、窓口業務、経理等)	1	7.7%
実験助手	1	7.7%
製造・販売	1	7.7%
調理師	1	7.7%
アパレル事務	1	7.7%
貸しスタジオのスタジオマン	1	7.7%
合計	13	100.0%

問2. 現在の職業（職種）をお答えください。

アパレル事務	1
栄養士(病院、福祉施設、保育園等)	6
教員	1
事務(受付、窓口業務、経理等)	1
実験助手	1
製造・販売	1
貸しスタジオのスタジオマン	1
調理師	1

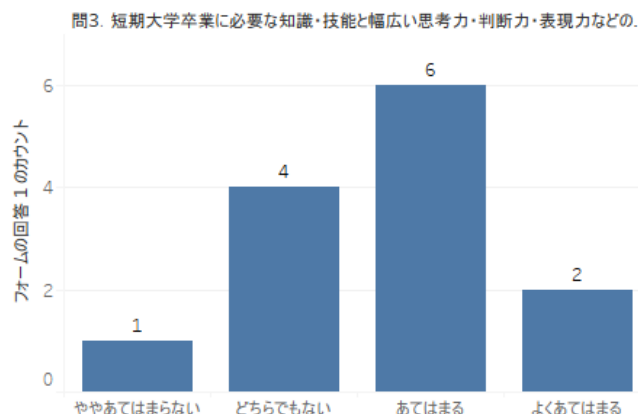
Ⅱ. 別府大学短期大学部食物栄養科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。

また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。

A. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について

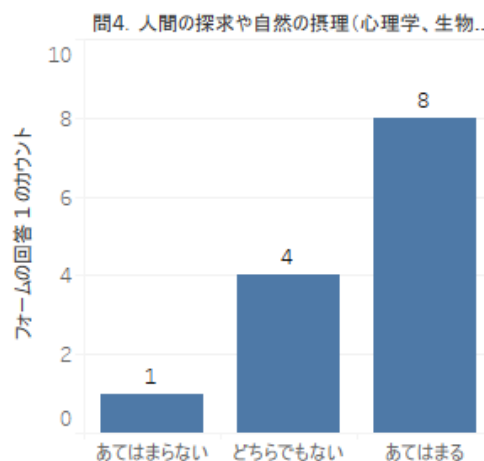
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	2	15.4%
あてはまる	6	46.2%
どちらでもない	4	30.8%
ややあてはまらない	1	7.7%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



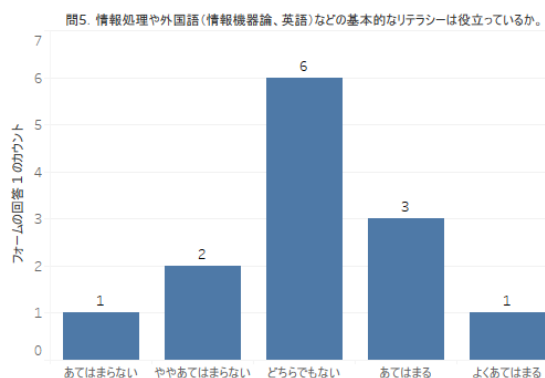
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的な教養は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	8	61.5%
どちらでもない	4	30.8%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	1	7.7%
合計	13	100%



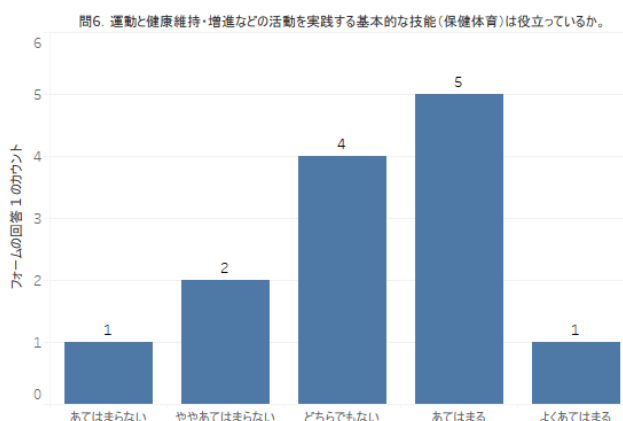
問5. 情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	1	7.7%
あてはまる	3	23.1%
どちらでもない	6	46.2%
ややあてはまらない	2	15.4%
あてはまらない	1	7.7%
合計	13	100%



問6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	1	7.7%
あてはまる	5	38.5%
どちらでもない	4	30.8%
ややあてはまらない	2	15.4%
あてはまらない	1	7.7%
合計	13	100%



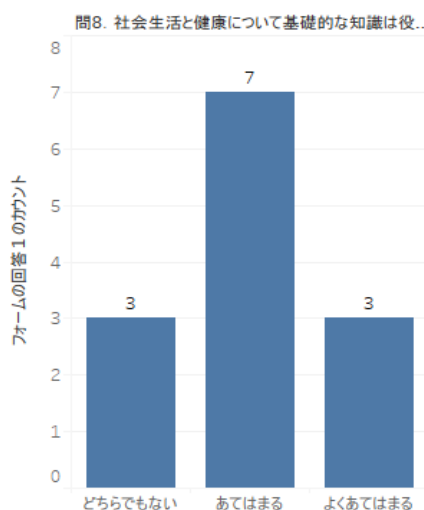
問 7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・短大時代に目にしていない帳票類ばかりだったため、戸惑いました。社会にどんな種類の何があるかを知りたかったです。
- ・福祉施設における栄養ケアマネジメントのやり方や栄養指導方法
- ・GRIM 基準などだんだん進化しているところを詳しく学習したい
- ・年齢にあった食育

B. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について

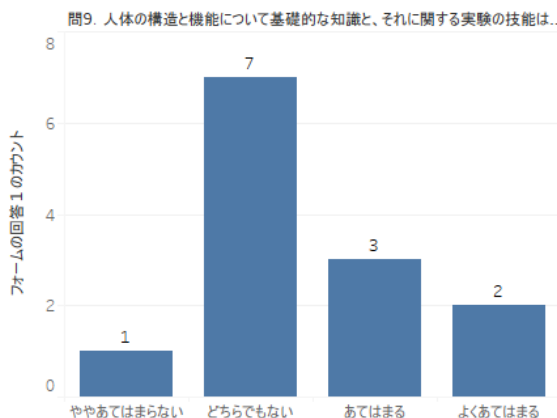
問 8. 社会生活と健康について基礎的な知識は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	3	23.1%
あてはまる	7	53.8%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



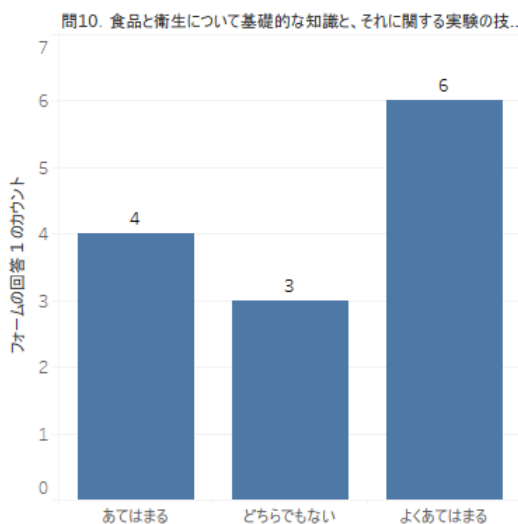
問 9. 人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	2	15.4%
あてはまる	3	23.1%
どちらでもない	7	53.8%
ややあてはまらない	1	7.7%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



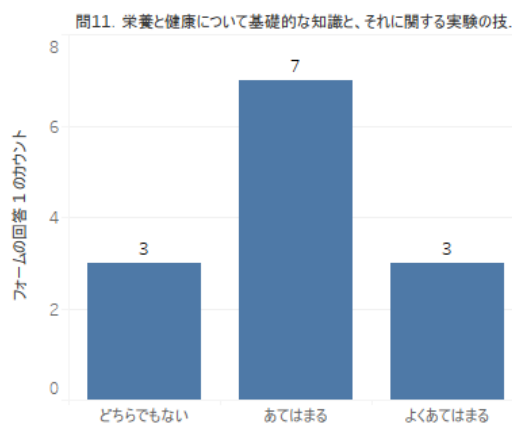
問 10. 食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	6	46.2%
あてはまる	4	30.8%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



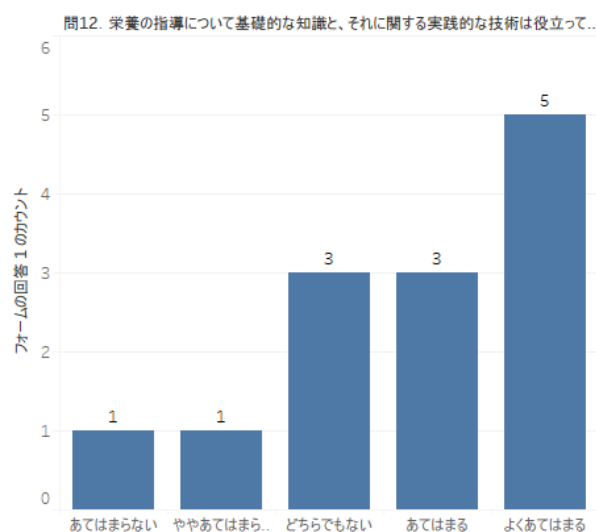
問 11. 栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか

回答	回答数	割合
よくあてはまる	3	23.1%
あてはまる	7	53.8%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



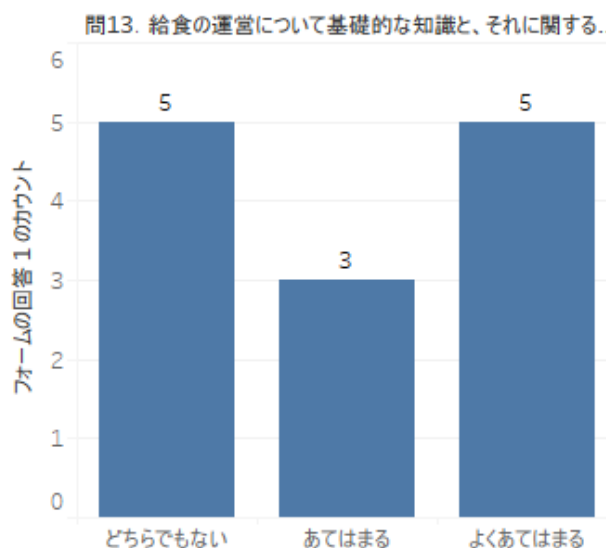
問 12. 栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	5	38.5%
あてはまる	3	23.1%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	1	7.7%
あてはまらない	1	7.7%
合計	13	100%



問 13. 給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	5	38.5%
あてはまる	3	23.1%
どちらでもない	5	38.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



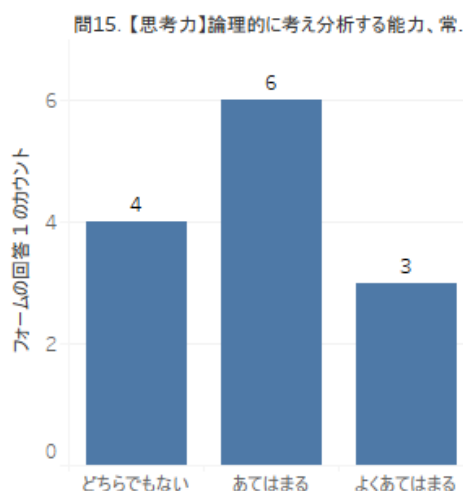
問 14. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- 調理学、調理実習
- ph 試験紙を使った実験、野菜切りのテスト等
- 臨床栄養学総論 基本的な糖尿病、腎臓病、脂質異常症などの食事療法を学ぶことができて役に立っている
- 給食管理経営
- 調理の実技授業。栄養士の職にはついていないが生活する中でとても役立っている。
- 家庭科教育法、給食経営管理実習

C. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について

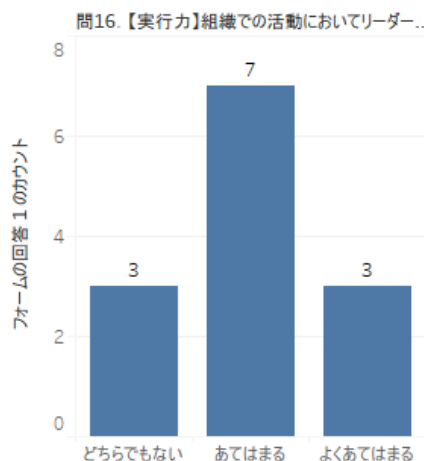
問 15. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	3	23.1%
あてはまる	6	46.2%
どちらでもない	4	30.8%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



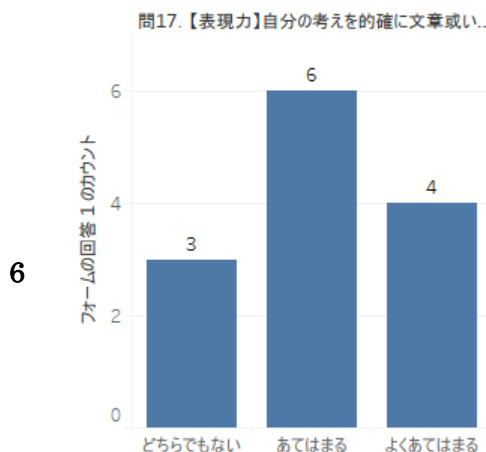
問 16. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか

回答	回答数	割合
よくあてはまる	3	23.1%
あてはまる	7	53.8%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



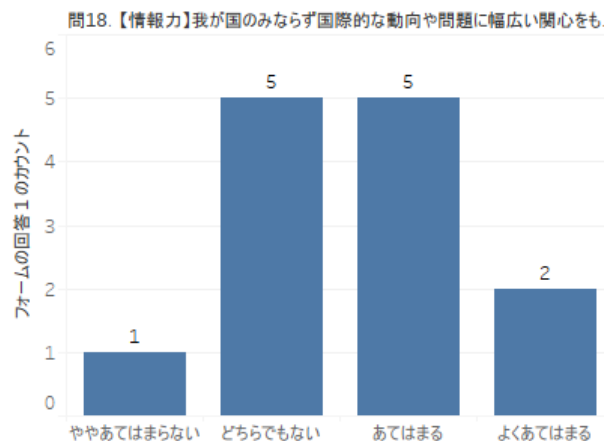
問 17. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	4	30.8%
あてはまる	6	46.2%
どちらでもない	3	23.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



問 18. 【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書や I C T 機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	2	15.4%
あてはまる	5	38.5%
どちらでもない	5	38.5%
ややあてはまらない	1	7.7%
あてはまらない	0	0.0%
合計	13	100%



問 19. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- 英語
- 敬語
- 課題だけではなく自分で問題や調べたいことを見つけて取り組めばよかったと思います。
- 納品された野菜に虫がついていた時の対処法
- 本人次第にはなるが、遅刻や無断欠席など当たり前のことが出来ていないと社会人になっても繰り返してしまうと思う。また、栄養士になった場合の将来像を考える機会があれば就活でより頑張れると思う。
- レポート等の課題を必ず余裕を持って行い、期限よりも早めに提出すること。

問 20. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- コロナ禍での中の学生生活でしたが、楽しかったです！！沢山役に立っていることが多くて通ってよかったなと思っています。今は仕事にも慣れてきて調理師さんが動きやすい現場作り、献立作成をして自分の献立月が何事もなくうまく行くと達成感を感じて、栄養士業務がとても楽しいです！ありがとうございました！
- 4年生大学のように教養科目をもっと増やして複数学年で選択できればいいなと思いました。
- 栄養士にはなりませんでしたが、短大時代に経験したことが生活の中で生かせるのでとてもいい経験だったと感じています。

令和6年度 卒業生アンケート調査結果 【初等教育科卒業生】

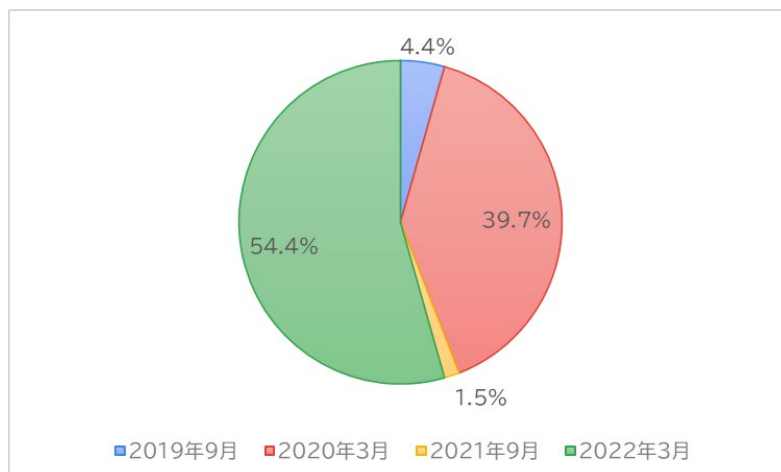
(2) 初等教育科【送付：427人，回収：68人，回収率15.9%】

- 調査対象 2021年度卒業生及び2019年度卒業生
- 発送日 令和6年8月2日（金）

I. はじめに基本事項についてお答えください。

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	人数	割合
2019年9月	3	4.4%
2020年3月	27	39.7%
2021年9月	1	1.5%
2022年3月	37	54.4%
合計	68	100%



問2. 現在の職業（職種）をお答えください。

職種	人数	割合
保育士	28	41.2%
保育教諭	17	25.0%
幼稚園教諭	3	4.4%
小学校教諭	11	16.2%
施設職員	1	1.5%
事務員	2	2.9%
フリーター	1	1.5%
主婦	1	1.5%
専門学生	1	1.5%
派遣社員	1	1.5%
美容関係	1	1.5%
美容師	1	1.5%
合計	68	100.0%

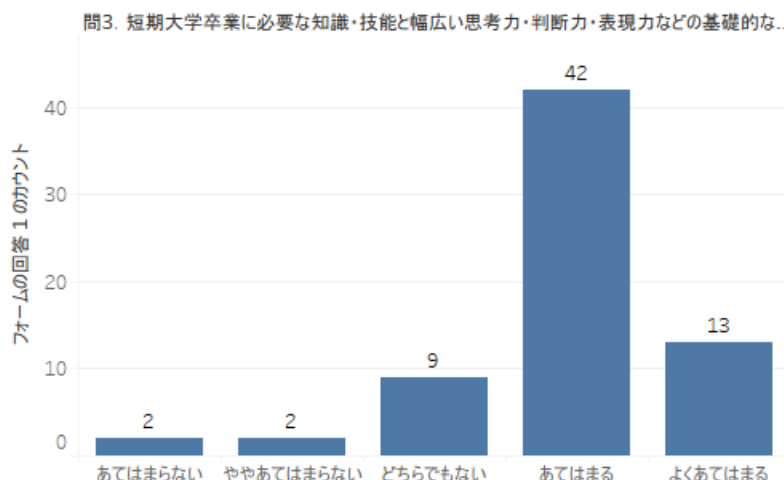
問2. 現在の職業（職種）

保育士	28
保育教諭	17
幼稚園教諭	3
小学校教諭	11
施設職員	1
事務員	2
フリーター	1
主婦	1
専門学生	1
派遣社員	1
美容関係	1
美容師	1

Ⅱ. 別府大学短期大学部初等教育科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。

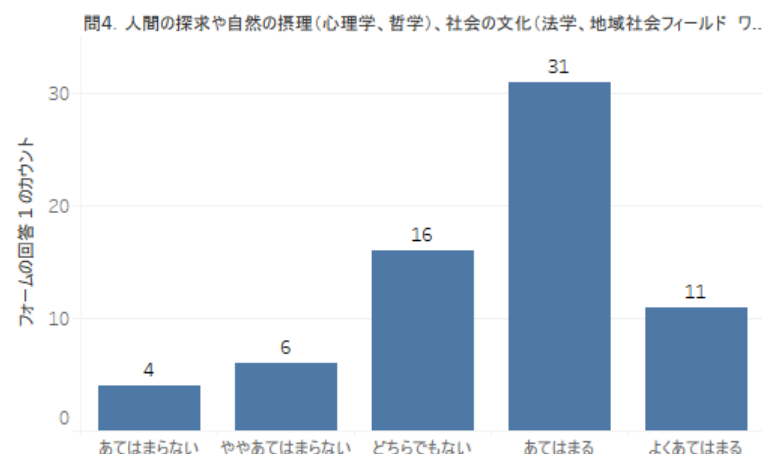
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	13	19.1%
あてはまる	42	61.8%
どちらでもない	9	13.2%
ややあてはまらない	2	2.9%
あてはまらない	2	2.9%
合計	68	100%



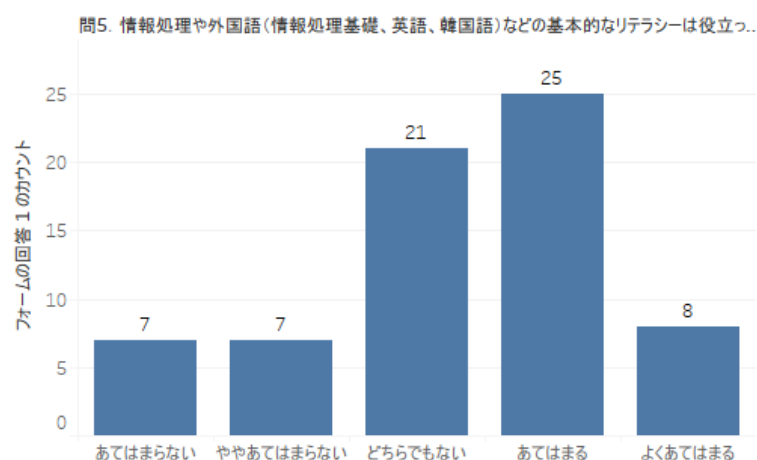
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学，哲学），社会の文化（法学，地域社会フィールドワーク演習）などの基礎的な教養は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	11	16.2%
あてはまる	31	45.6%
どちらでもない	16	23.5%
ややあてはまらない	6	8.8%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



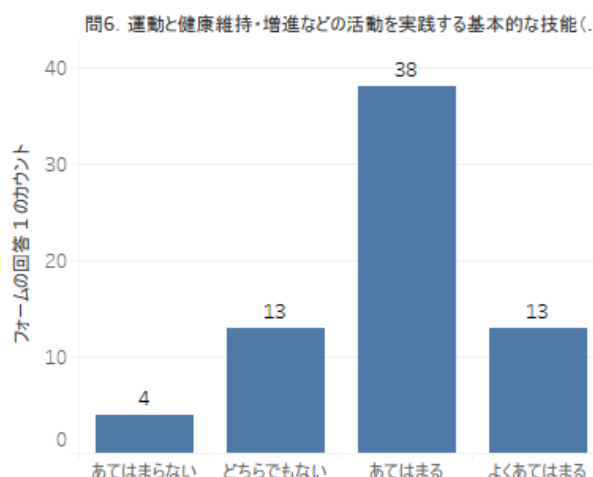
5. 情報処理や外国語（情報処理基礎，英語，韓国語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	8	11.8%
あてはまる	25	36.8%
どちらでもない	21	30.9%
ややあてはまらない	7	10.3%
あてはまらない	7	10.3%
合計	68	100%



問 6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	13	19.1%
あてはまる	38	55.9%
どちらでもない	13	19.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



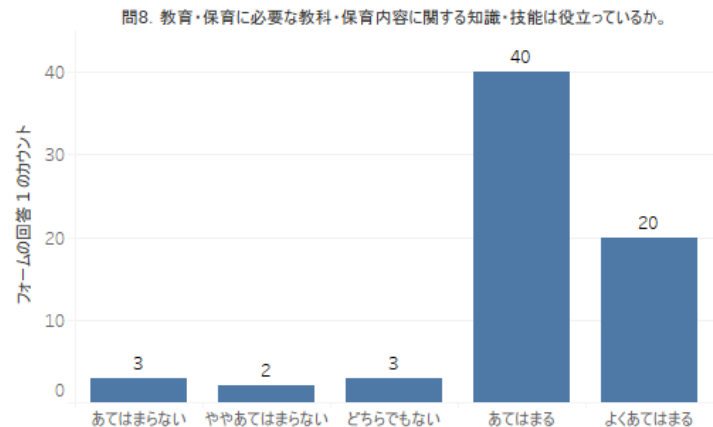
問 7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ☐ 社会の常識
 - ☐ 事例検討、実践形式の授業
 - ☐ ビジネスマナー
 - ☐ 基本的な挨拶、マナーは大学生のうちから身につけておいた方がいいと思います。
 - ☐ 保健
 - ☐ 実践的な教育
 - ☐ 実践的なもの
 - ☐ プレゼン力 情報処理能力
 - ☐ ミルクの作り方、未満児への接し方などをもっとしっかり学べていたら良かったと思います。実習の体験が1番、役立っていると感じます。
 - ☐ 教科の指導力もちろんですが、仕事を効率的にこなす力が必要だと感じてます。
 - ☐ コロナ禍もあり、模擬授業が出来なかったため実践を意識した模擬授業を行うべきである。
- また、実践現場を意識という点において、大まかな校務分掌や特性のある児童への対応、授業を聞けない、座らない立ち歩く児童、保護者対応等、教員の仕事は授業だけではないため広く知識を伝えていくべきと感じた。
- また、論理的な講義も必要ではあるが、論理的に理解はしているものの授業に実践することは難しい。学んだことや学習指導要領の内容、文科省が求める授業を行うにはどんな授業をすればよいのか、どんな学級経営をすればよいのかを教えていただきたい。
- ☐ 実践授業
 - ☐ 社会人としてのマナー
 - ☐ 子供の心理
 - ☐ 社会情勢、税金などの生活に必要な事柄
 - ☐ 園によっていろいろ書き方があるかと思うが、書類の書き方を少しでも知っておけば1年目からでもかけられる。(月案、週案、個別、年間など)
 - ☐ 実践例を具体的に教えてくださると役立つと思います
 - ☐ 実習と実習に関する授業で実際に現場に立った経験は今でも役立っています
 - ☐ 保育の実践経験

A. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について

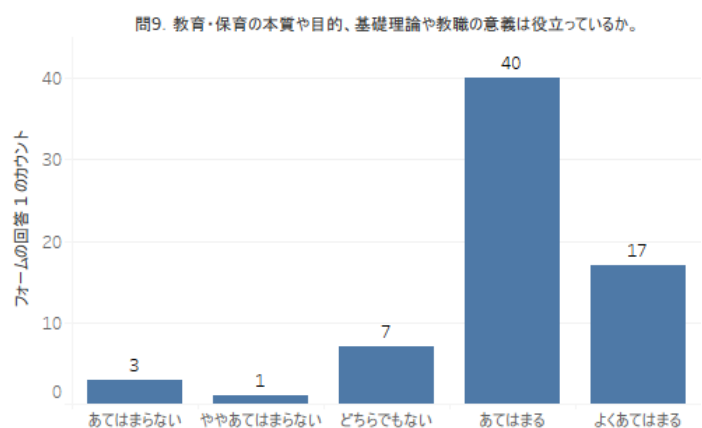
問 8. 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	20	29.4%
あてはまる	40	58.8%
どちらでもない	3	4.4%
ややあてはまらない	2	2.9%
あてはまらない	3	4.4%
合計	68	100%



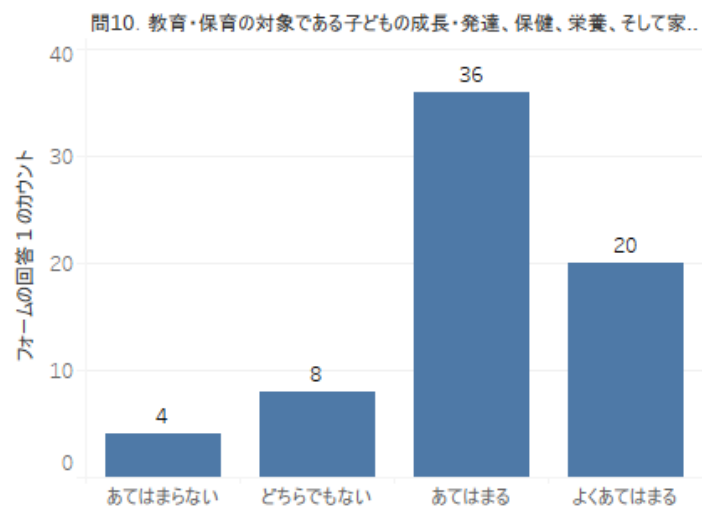
問 9. 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	17	25.0%
あてはまる	40	58.8%
どちらでもない	7	10.3%
ややあてはまらない	1	1.5%
あてはまらない	3	4.4%
合計	68	100%



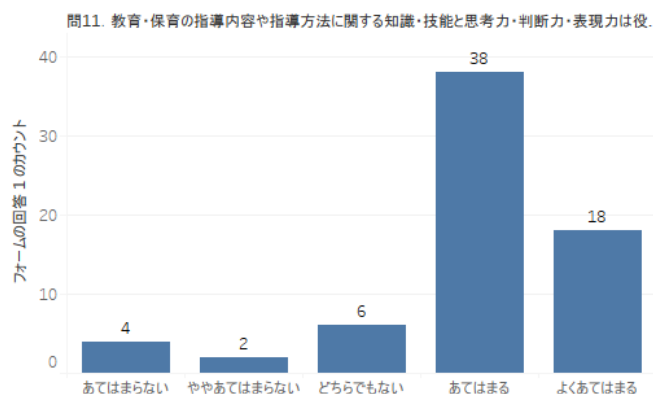
問 10. 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	20	29.4%
あてはまる	36	52.9%
どちらでもない	8	11.8%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



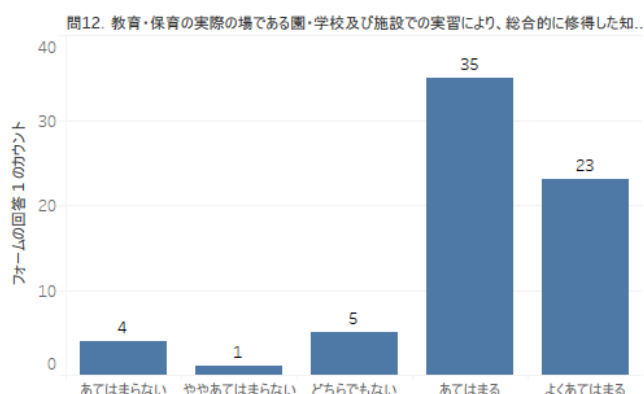
問 11. 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	18	26.5%
あてはまる	38	55.9%
どちらでもない	6	8.8%
ややあてはまらない	2	2.9%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



問 12. 教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	23	33.8%
あてはまる	35	51.5%
どちらでもない	5	7.4%
ややあてはまらない	1	1.5%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



問 13. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ピアノのテストはみんなの前でスーツを着てすること。理由は働くともっと緊張する場面がたくさんあるので、その経験の一つとして行うと良い。
- 保育実習・幼稚園教育実習
- 実際の保育現場での実習
- 障害についての科目で発達障害や自閉症、多動症などの子どもが多く対応の仕方など事前に学ぶことができ、実際に保育現場で上手く対応できることが多いから
- 保育実践はとても役に立っていると思います。実際に園に行って保育を見たり、関わることで社会に出た時も少しですが、役に立っています。
- 教育実習
- 児童心理学 児童理解に役立つ
- 保育内容の言葉の際、大型絵本の読み聞かせを行ったことは有意義だったと思います。また、制作で役立つ造形表現？などは今でもやって良かったと思います。
- 現場で身につける力が多かったため、活かせたと感じる事があまりない。
- 事例を用いた授業は分かりやすかった。
- 実技全版
- 日案の作成、実践をした授業は仕事の中で使用できたので良かった。

○ ピアノ

○ 実習では実際に現場に立てた経験が、音楽科目ではピアノや楽譜の知識が今保育士として役立てることが出来ています

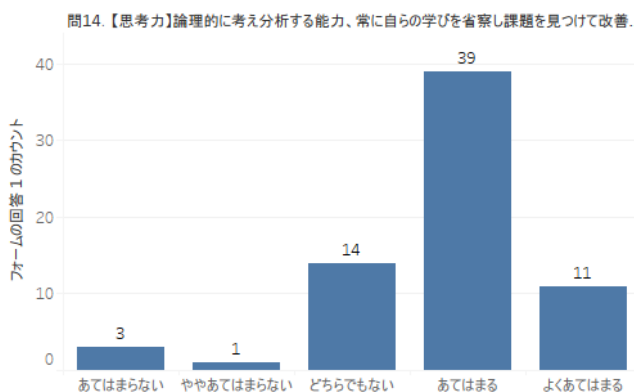
○ 障がい児保育

○ 教科の指導法

C. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について

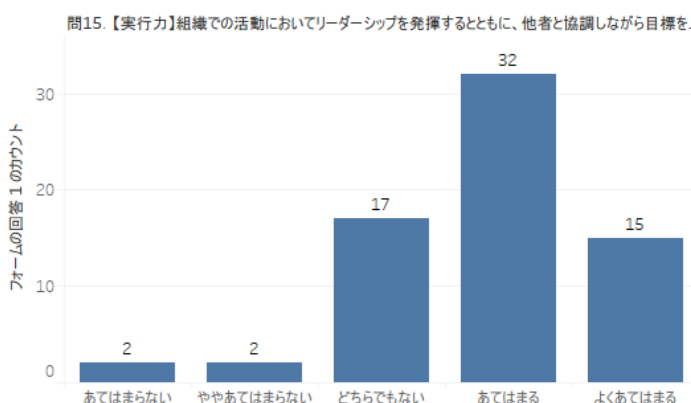
問 14. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	11	16.2%
あてはまる	39	57.4%
どちらでもない	14	20.6%
ややあてはまらない	1	1.5%
あてはまらない	3	4.4%
合計	68	100%



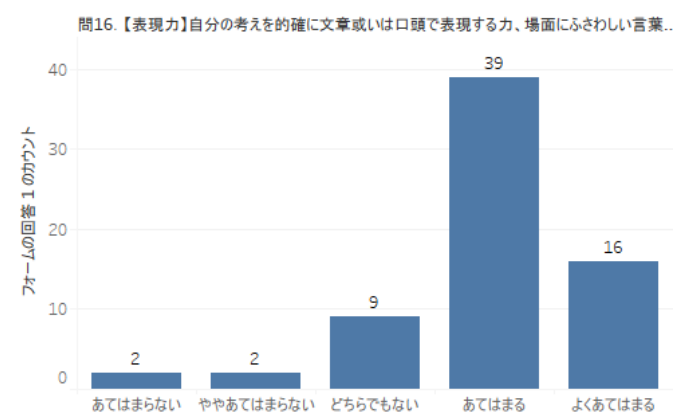
問 15. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	15	22.1%
あてはまる	32	47.1%
どちらでもない	17	25.0%
ややあてはまらない	2	2.9%
あてはまらない	2	2.9%
合計	68	100%



問 16. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

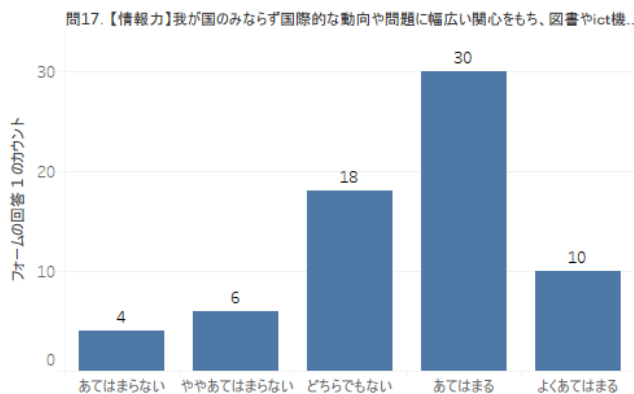
回答	回答数	割合
よくあてはまる	16	23.5%
あてはまる	39	57.4%
どちらでもない	9	13.2%
ややあてはまらない	2	2.9%
あてはまらない	2	2.9%
合計	68	100%



問 17.
【情報力】我

が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答	回答数	割合
よくあてはまる	10	14.7%
あてはまる	30	44.1%
どちらでもない	18	26.5%
ややあてはまらない	6	8.8%
あてはまらない	4	5.9%
合計	68	100%



問 18. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

技能：リトミック遊びのピアノ、手遊び歌、創作ダンスの知識が必要だなと感じた。また、在学生にも身につけて欲しい。

- ・ピアノをもっとしっかり弾けるように努力すれば良かった。個別指導計画や児童票などの書類の書き方を学んで身につけておけば良かった。
- ・ピアノの練習をもっと真剣にやっておくべきだったと思います。また、もっと人脈作りをしておくのも大事だったかなと今となっては考えるところです。
- ・児童票、発達記録、アセスメントシート等書類の書き方を事前に学んでおくことが必要だと感じた。自治体によって異なる書類もあるため、書き方を学ぶことが難しいのであれば、どのような書類が児童票に必要なのか等、事前に学んでおくのと良いと感じた。
- ・子どもの体調管理について 保健関係

保育：手遊び

技術・新生児のオムツ替えは学校でできるが、乳児、幼児のおむつ替えの経験（おむつの横を破る）はなかった。ミルクの作り方、離乳食の基本知識、感染症の知識を身につけておけばよかった。

- ・月案や週案を立てることや活動のねらいを決めること
- ・子どもの事例をたくさん紹介して欲しい。

特別： 保育に関して授業で習ったことを実践し、積み重ねていくことで自分に合った活動や仕事をできるようになり、保育だけでなく施設での支援もできるため良かった。児童発達支援での仕事もできるため、もう少し支援について学んでおけばよかったと思った。支援についての始まりなどの話は聞いて良かったが今の現状の様子などを知っておけば仕事の幅も広がったと思います。

社会： 保育士や幼稚園教諭は、人対人の仕事で、保護者、会社の先生方、子どもなど、常に人と関わるので人と 人の上手い関わり方等を学んだ方がいい。また、実践的な活動を多く入れ、とにかく経験を増やして いいと思う。

- ・知らない人と1から関わるある程度のコミュニケーション能力。他クラスとの交流など。
- ・目上の方への言葉遣いやマナー、先輩先生との適度な距離の関わり方など態度面を学びたかったのと

身につけて欲しい。

- ・マナー、電話対応(保護者との対話)
- ・社会人としてのマナー
- ・最低限のマナーと上下関係での暗黙のルール
- ・基本的なマナーは絶対に大切です。挨拶、期限を守るなど必ず守れるように身につけて欲しいです。障がい者の名前、特徴、関わり方などをもっと学んでおけばよかったと思いました。実際に関わった時に戸惑いだったり、苦戦したのもっと学んでおけばと思いました。
- ・伝える能力。文章能力。学生時代の経験
- ・礼儀。ICT の活用方法。
- ・授業力 コミュニケーション力
- ・コミュニケーション能力はもっと身につけておけば良かったなと改めて思う
- ・コミュニケーション能力、危機管理能力、判断力
- ・ICT の効率的な使い方をもっと学んでおけばよかった。自分に合った職業かしっかりと考えて選ぶこと。
- ・コミュニケーション能力、継続力
- ・社会に出たことの無い人が非常に多いため、上司との付き合い方が分からない若者が多いと感じる。上座や下座はどこに当たるのか、仕事をしていくこれからの日本独自のマナー等を大学時代で身につけておいて欲しい。
- ・パソコンの使い方
- ・交流を広げる
- ・保育に対する面も大切ですが、挨拶など基本的なことも身につけておいて欲しいです！
- ・コミュニケーション能力が必要だと思います
- ・礼儀や仕事に対する姿勢、職場選びの大切さ
- ・社会人のマナー、細かい実践経験(コピー機の使い方やラミネートの仕方など
- ・言葉遣い、礼儀
- ・1. 遊べるだけ遊び回っておいてください。

実習：実習のうちから自発的行動。

生に：実習

対し：最低限のマナーや言葉遣いは必要だと思います、そしてそれは実習や実習に向けての学内での準備の時にとても身についたと感じています。

問 19. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

○ 別府大学短期大学で2年間学び、さまざまなことを知り、取り入れ、今の保育士として活かすことができます。3年目でまだまだですが、別府大学で学べたことを誇りに思っています。ありがとうございました。

今後も別府大学から保育士や幼稚園教諭等に就職し、皆様が楽しく働いていけますように願っています！

○ 実際に現場で働いている卒業生を招いて話を聞いたりしたらより深く学べると思う

○ 短大時代はお世話になりました！

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日
短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況进行评估する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

⑦ 卒業時における学習成果達成度調査

卒業年次生を対象に、本学の DP（ディプロマ・ポリシー）に定める学修成果の目標に対する達成状況を調査する。

⑧ CP（カリキュラム・ポリシー）等に基づく教育課程プログラムの成果の検証

各科目や学科ごとの GP の分布、DP の達成状況、免許・資格の取得状況、就職状況等を調査し、その結果に基づき、教育課程の適切性を検証する。

令和 6 年 3 月 5 日改定

食物栄養科「卒業生アンケート」によるDP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2018年度と2020年度の卒業生を対象として実施し、昨年度よりも回答数のUPを図った。送付数93人のうち回答人数28人、回収率は30.1%であった。回答人数、回収率ともに前回調査より大幅に増加した。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

（1）短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理 由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が82.1%となり評価を4とした。数値も3ポイント上昇している。この結果から、基礎的な教養を身につけることや、建学の精神及び教育目的・教育目標等の理解については、多くの卒業生が肯定的にとらえており、この項目の目的は達成できていると考えられた。

（2）人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理 由
3 (2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」10.7%、「あてはまる」50.0%で肯定的評価の合計は60.7%という高評価である。昨年度の「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が50.0%であり、達成状況が上昇した。課題としては、「ややあてはまらない」14.3%であること。昨年の28.6%からは、大きく改善しているので現在の改善策「基礎的教養が専門性の中に活かされることや社会生活を送る上での教養となる必要性を授業者に認識させたうえで学修をすすめていく」ことを今後もすすめていく必要がある。

（3）情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理 由
3 (2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」10.7%で昨年の調査結果0%から飛躍的に向上している。「あてはまる」を加えると64.3%（50.0）となり評価は3とした。昨年度まで2年連続で低下していたが、授業で積極的に情報処理の基礎知識を扱い、表現させたり、調べさせたりしていることが改善につながったと考えられる。ただ、「情報力」についてはまだまだ、評価が低い。情報処理や外国語については、習熟度別の授業の再編や向上を目指す授業改善が図られている。今後これらの改善がさらに評価の向上や情報力の向上につながるであろう。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の評価は 67.9%で昨年の 28.6%から大幅な情緒である。一昨年度の 70%にもどったと考えてよい。また、「ややあてはまらない」は 1 名の 3.6%であり、この数値も改善した。今後はさらに、専門科目における栄養学的観点から栄養学とともに健康維持・増進に関する基本的知識と技能を身につけていく必要があると考えられる。栄養士として重要な知識・技能であるため、幼児教育現場や介護施設現場でも必要になる「スポーツと健康」等の受講者を増やすとともに学習効果を高めていく必要がある。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

回答数が 28 名と昨年の 2 倍になった。評価ポイントも 4 項目ともに非常に肯定的なものとなった。

(1) については学生評価が高く、基礎的な教養が役立っているとの評価であった。例年高いがさらに、超えるものとなった。(3) 情報処理他を対象とするような具体的な質問内容では昨年の「ややあてはまらない」40%が 10%ほどに激減した。これには、より現場での実践に使える学修方法や学修内容にしたことや習熟度学習などを取り入れたこと成果が表れているのではないかと考えられる。ただ、自由記述では、まだまだ、「情報処理や表現力について、もっと実践的に学びたかった。」の声も他の項目の回答からもよく書かれている。さらに、社会に出てからの情報処理力の必要性から大学での授業を見直す必要があると考える。

(2) や (3) の質問には「どちらでもない」との回答が 4 分の 1 であった。全体としては、高評価であるが、学ぶことの意義や履修選択段階から将来の必要な力になることなど意識させることが必要であり、学修内容や方法の改善をさらに進めていくことが必要である。

自由記述においては、コミュニケーション能力を向上させる必要を感じたという意見もあり、挨拶など常識的な事も含めて、人間関係づくりやそれから発生するストレスの低減につながる学修を考えていく必要を感じた。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

＜社会的意義＞食物と栄養・健康に関する知識や技術の社会的な意義や、食物と栄養・健康に関する知識や技術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞食物と栄養・健康に関する専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に栄養管理や給食管理、調理の能力を修得している。

(1) 社会生活と健康について基礎的な知識を修得している。

評価 (1～4)	理由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が 82.2%であり、昨年度と同様 8 割を超えているので評価を 4 とした。 また、「どちらでもない」「ややあてはまらない」という評価が 17.9%存在するが、卒業生は栄養に関する就職先ばかりではないので、このような回答は毎年一定数でてしまうと考える。栄養に関わる仕事に携わっている卒業生が一定の社会福祉や健康管理に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。

(2) 人体の構造と機能についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能を修得している。

評価 (1～4)	理 由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」は、71.5%であったので評価を 3 とした。(昨年度の 28.6%より上昇)「どちらでもない」が 14.3.7%となり、「ややあてはまらない」「あてはまらない」も 14.3%であったが、この分野は専門性が高く、栄養士職以外の職に就いた卒業生は、質問内容を活用する場面がないからだと考える。病院や福祉関係の栄養士として仕事をしている卒業生は人体についての基礎的知識等について学校での学びが卒業後も役立っていると考えられる。

(3) 食品と衛生についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1～4)	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」との回答が 85.7%あり、評価は 4 とした。昨年度と割合も同じである。多くの卒業生が食品と衛生に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、卒業後も役立っていると考えられる。「どちらでもない」「あてはまらない」の回答も 14.3%あることから、食品と衛生に関する基礎的な知識は栄養士としてはもとより、一般の社会生活においても重要なことであり、継続して学修を充実させていく必要がある。

(4) 栄養と健康についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1～4)	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」の回答は 78.5%であり評価は 4 とした。昨年度と割合もほとんど変わらない。卒業生は栄養と健康に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、特に栄養に関する知識が必要な就職をした学生は卒業後も役立っていると考えられる。栄養と健康に関する基礎的な知識は、一般の社会生活においても重要で、今後も継続して学修を充実させていく必要がある。

(5) 栄養の指導についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1～4)	理 由
4 (3)	「よくあてはまる」25.0%、「あてはまる」42.9%と回答、合計 67.9%で評価は 3 とした。昨年は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計評価は 71.4%だったので評価は少し低下した。栄養の指導についての内容は、栄養士の専門職に就職するか否かで必要性変わってくるのが要因と考えられる。(32.3%が栄養士以外)。栄養士で就職した者は栄養の指導についての学習内容は、概ね知識および技術が修得でき、指導の面からも役立っていると考えられるが、さらに学修を充実させていく必要がある。

(6) 給食の運営についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1～4)	理 由
3 (4)	「よくあてはまる」46.4%,「あてはまる」28.6%の合計 75.0%で評価は3とした。昨年度は両方合わせて 85.7%だったことから評価は低下した。回答のうち一般職等に就職した者が 3 割いることからこのような結果になったと考えられるが栄養士として就職した卒業生は学修内容が役立ったと回答しているので給食の運営に関する基礎的な知識および実践的な技術は概ね習得したと思われる。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門性に関する知識、卒業後に栄養士で就職したか一般職で就職したかによって結果が大きく変わってくるので分析は困難であるが、どの項目の評価も 4 か 3 であり、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は概ね修得できていると考えられる。

自由記述に関して、栄養に関する知識、調理実習、病院実習が有意義であったという意見が多く、これらの授業、実習がきわめて有効であったことがわかったので、今後とも継続してよい講義、実習となるよう努力したい。また保育園等での食育に関する内容にも力を入れていきたい。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力） カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価 (1～4)	理 由
4 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が 85.7%であった。昨年度の 71.4%より大きく伸びており評価は4とした。大学で身につけた「思考力」が職種を問わず社会で役立っていると考えられる。今後も社会生活に対応できるような、自ら考える思考力、実践は益々求められていくと思われるので、その力を学生時代に養うことが必要と考える、引き続き取り組んでいきたい。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価 (1～4)	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」25.0%,「あてはまる」57.1%で合計 82.1%であったことから昨年に引き続き、評価を4とした。回答した卒業生は、大学で身につけた「実行力」が社会である程度役立っていると考えられる。今後も実習、研究会などを通して目標を達成するための実行力を身につけていく必要があるので引き続き取り組んでいきたい。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（１～４）	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」39.3%、「あてはまる」50.0%で、評価の合計が89.3%と高く評価を4とした。回答した卒業生は、大学で身につけた「表現力」が社会で役立っていると考えられる。目標を達成するため、今後も授業や研究会活動などを通じて学生の表現力のさらなる向上を促していく必要がある。自由記述欄にも「コミュニケーション能力」が書かれているので今後益々重要になってくると考えられる。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やＩＣＴ機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、ＰＣスキルなどを含む。

評価（１～４）	理 由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は60.8%で評価を3とした。昨年度は両方合わせて50%であったことや「あてはまらない」という回答があった（今年度は「あてはまらない」が0%）ことから、ＩＣＴ機器等を用いて情報を収集する力が少しずつ身についていると思われる。これは情報関連科目の改編等がされたことが情報力向上に繋がったと考えられる。しかし数値的に決して高いとはいえないので、今後更に必要になるであろう情報力の内容に力を入れていきたい。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

思考力、実行力、表現力については評価が4、情報力については評価が3となり、汎用力については社会で活躍できる力を概ね修得できていると思われる。

しかし、情報力については、まだ高い評価とはいえない。これはどの職種にも必要であるが、特に栄養指導やデータの分析、情報収集等々栄養士は身に付けておかねばならないといけな力であるので、図書や文献の検索方法、PCスキル等を指導していくことが強く求められる。

また、どの項目も「どちらともいえない」が数名いることから、卒業生が社会で活躍できる能力を習得することができるよう、引き続き取り組む必要がある。

初等教育科「卒業生アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2018年度、2020年度の卒業生を対象として回答数のUPを図ったが、送付数406人のうち回答人数は15.3%の62人であった。昨年度調査の回答人数より6人少なく、回収率も1.5%低くなった。依然として回収率は低く、調査の信頼性に課題が残る。コロナウィルスの感染拡大で自宅に帰っていない状況も考えられる。確実に、卒業生へ届くように送付する住所等の検討が必要である。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

- （1）短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は77.6%であった。昨年度より3.9%減少しているものの、8割近くの卒業生が理解していることを示しており、基礎的な教養を身につけ建学の精神及び教育目的・教育目標をほぼ達成できていると考える。

- （2）人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理 由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は71%であり、昨年度より10%増加しており、昨年度より満足度が高まっていることが示された。基礎的教養は専門性分野の中でも必要であり、社会の文化やマナーは、人間関係の形成に重要である。引き続き各授業や日々の生活の中で伝えていく必要がある。

- （3）情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理 由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」回答した割合の合計は64.5%であり、昨年度より10%増加している。保育・教育現場でのICT化やコロナ禍の中で、ICTの活用の加速が、情報機器の操作や処理能力の必要性を高めたためと思われる。多様な場面でのICTの活用ができる教育内容が求められる。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理 由
3 (3)	運動と健康維持・増進活動の実践技能については、「よくあてはまる・あてはまる」の回答が 80.7%と昨年度より 1%増加しており、過去 3 年間で年々上昇している。また、「あてはまらない」という回答が 0%となっており、学んだことを実践で十分に活かしているようである。コロナ禍での体力の低下などで必要性が増していると考えられる。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

今回のアンケートでも回答数が十分ではないため、偏りがみられる。しかし、満足度は年々高くなっている傾向にある。特に、コロナ禍での急激な ICT 利用により情報処理、基本的なパソコンスキル等は、昨年より満足度が 10%も高く、卒業後に即座に必要なスキルとなっていることがわかる。生活背景の状況とともに、情報処理や基本的なリテラシーの教育内容もより、充実した内容の検討が求められる。また、発達障がいのある子どもへの支援についても必要と自由記載に多くあり、科目のなかでの教育内容の検討と卒業後の継続的な学びの充足も必要であると思われる。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度） カッコ内の数字は昨年度の評点

<社会的意義>

教育学のもつ社会的な意義や、教育学を学ぶことによって現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力>

教育学の専門教育を通して、職業生活で評価される能力として、特に教育・保育に対する強い情熱、確かな指導力と総合的な人間力を身につけている。

(1) 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能を修得している。

評価 (1～4)	理 由
4 (4)	卒業生アンケートにおいては 89.7%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答しており、満足度はかなり高いと言える。保育に必要な情報や知識技能は概ね修得できていると言える。

(2) 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義を修得している。

評価 (1～4)	理 由
4 (4)	卒業生アンケートでは、88.76%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、概ね教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義の修得ができていると判断できる。昨年度より高い数値となっており、さらに改善していきたい。

- (3) 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能を修得している。

評価（１～４）	理 由
4 (4)	子どもの成長・発達、保健、栄養、生活の知識や技能について 85.5%の卒業生が「よくあてはまる・あてはまる」としており、昨年度とほぼ同じで、高水準を保っていて、概ね知識技術の修得ができていると判断できる。

- (4) 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力を修得している。

評価（１～４）	理 由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と修得しているとの評価が 75.86%であり、昨年度調査より若干低い評価である。自由記述では、有意義だった授業に「ピアノ」「障害児保育」「保育内容」等いくつかの意見もあり、修得に関して満足度は高い。

- (5) 教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合的に修得している。

評価（１～４）	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 82.2%であり、昨年度と同様で学生の満足度は高い。「教育実習」で、充実した学びがあったとの意見も見られた。引き続きさらなる実習指導の充実を図っていききたい。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力に関する取り組みについて、昨年度とほぼ同じ水準にあった。4 の評価項目が 4 つ、3 の評価項目が 1 つあったものの、卒業生の回答は良好で、専門力の修得に関して満足度が高い。引き続き、本学の専門力の修得については、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法等を取り入れるなど、主体性を重んじた体験的・実践的な方法を取り入れた授業展開が必要と思われる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力） カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価（１～４）	理 由
4 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 82.2%であり、昨年度調査の 72%から数値が 10 ポイントも高く 80%を超えた。社会に出てからは自ら学ぼうとしたり、自分で課題を見つけ改善したりしようとする思考力を身につけた人材が求められているため、さらに改善した取り組み行う必要がある。どのような授業がこの成果を生んだのか考察して、他の授業にも広げていきたい。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価（１～４）	理 由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が77.5%であり、昨年度調査の74.1%から若干数値が高くなっている。働く上で、主体性や他者との協調力が必要であり、教育・保育者としては子どもたちや保護者などの声に耳を傾ける傾聴力が重要である。向上しているので今後も今の取り組みを継続していくことが重要である。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（１～４）	理 由
4 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が80.7%であり、昨年度調査の79.6%から若干数値が向上している。一般の職業においてでももちろんであるが、特に多くの卒業生がついている教育や保育、介護関係の仕事は、コミュニケーションをとることが重要になる職業に就いている。引き続き表現力や豊かなコミュニケーション力を身につけてられるような取り組みを改善しながら続けていく必要がある。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やＩＣＴ機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、ＰＣスキルなどを含む。

評価（１～４）	理 由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した者の割合の合計は、56.5%であり、昨年度調査の53.7%から若干数値が高くなっている。３年前の調査の36%に比べれば大きく向上してはいるものの、汎用力においてもっとも低い実態である。国際的な動向に関心を持つ必要性がないと考えていることが理由の一つと考えられる。在学中よりすべてのことが自分の将来や子どもたちの未来につながっていくという意識をもたせ、幅広い視点で興味関心を持ち、自ら情報収集し、関連づけられる態度や情報収集のスキルの向上について授業で強化していく必要がある。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

汎用力の評価は昨年度調査結果と比べると向上しているといえる。特に「思考力」「表現力」は80%以上が高評価である。ただ、若干の向上は見られるものの「表現力」においては他の調査項目の結果も鑑みて、改善に努める必要がある。学生に我が国や国際社会の現在の動向や問題について自分のことや子どもたちに関わることでありといった関心や問題意識をもたせるように意識した授業を行う。

問題意識をもたせることで、学修の目的意識が高まり、図書や ICT 機器を用いて情報を収集したり、相手にわかりやすく表現して伝えたりしようとする気持ちを高めることができる。それにともない、その取り組み過程で情報収集力や PC スキルも向上する。